

慮る

本校では、4月17日（水）から5月7日までを前期人権旬間としています。先ほど人権主任の上野先生からお話があったように、皆さんには、この期間に人権についてよく考えて欲しいです。そのためにも、まずは、こんな場面を想定してみます。

休み時間の教室。あなたと同じクラスのA君とB君が悪口を言い合っています。2人ともふざけているようには見えません。あなたはB君と席が近く、その時はB君のそばにいて、「お互い悪口を言うのは良くないな」と思いつつも、2人の様子を見ていました。そして、B君がA君に対して言った悪口の内容を面白く感じてしまい、つい笑ってしまいました。

あなたの立場で言えば、どうってことない出来事かもしれません。でも、A君の立場に立って、A君の気持ちを想像してみましょう。A君には、あなたが心の中で「お互い悪口を言うのは良くないな」と思っていることなど伝わっていないでしょうね。それどころか、一緒に悪口を言っていると思われてもおかしくありませんし、あなたからも攻撃されていると考えていても、それほど不思議ではありません。今、富士見中には、誰かの心を傷つけようと、いじめを行う生徒はいないと思います。ただ、自分ではそのつもりがなくても、結果として友達を傷つけてしまったということは、あるのかもしれません。それを防ぐためには相手の立場、自分以外の人の立場に立つことが大切なのです。次の例は、誰もが知っている「桃太郎」の物語です。桃太郎は、正義の味方です。悪いことをする「鬼」を退治にいくお話ですよ。でも、桃太郎には「悪いこと」に見えたことについても、桃太郎は知らない、鬼には鬼なりの正義があったとしたらどうでしょうか。物語の出だしは、こんなふうになるのではないのでしょうか。「昔 ひとつの美しい島に いろいろな鬼たちが平和に暮らしていました。…そこへ ひとりの人間の子どもが サルやキジやイヌをひきつれて この島にやってきました。」鬼の立場に立つと、見方や内容は変わってきます。

ここで改めて、「人権」ということについて確認しましょう。人権とは「人が人として、社会の中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利」のことです。そして、人権を尊重するというのは、自分や、自分だけでなく他の人の権利を大切にすることなのだと思います。「他の人を大切にする」とは「他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどを想像したり共感的に理解したりする」と考えることができます。「人の考えや気持ちなどを想像したり、共感的に理解したりする」ことを、最初に紹介した漢字「慮る」と言い表すことができます。読み方は「おもんばかる」です。世の中には、様々な人権課題があります。このあと、動画で学習するのは「同和問題」です。いじめや虐待などの「子供の人権」「障害のある方々の人権」などたくさんあるのです。そういう人権課題に対しても、皆が「慮る」気持ちをもつことが大事なのだと思います。

またこれは、人権課題に関わることだけのお話ではありません。最初のスライドにもありましたが、今、映っているのは、生徒玄関の前の花壇です。この花壇はお花が自生しているわけではありません。どなたかが種をまき、育ててきているのですよね。どんな思いで、どんなご苦労があってこの花壇が存在するのか…、慮ってみれば、気付いたり感じたりすることがあるでしょう。慮ることで、「ありがとう」という感謝の気持ちをもつこともできるのです。これからの前期人権旬間。他の人の立場に立つことを意識してみましょう。そして、他の人のことを慮ってみて欲しいです。

私からの人権講話は以上です。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣